

新型インフルエンザの感染拡大を予防するために

学校における日常的な感染予防

健康観察の充実

集団感染を可能な限り早期に探知し、感染の急速な拡大を回避することが大切です。

児童生徒の健康観察を確実に実施し、発熱や呼吸器症状（咳・のどの痛み・鼻水など）のある児童生徒には、特に気を配って対応しましょう。

うがい、手洗いの習慣の定着

うがいや手洗いを日頃から繰り返して指導するなど、習慣化を図ることが大切です。

指導に当たっては、手の洗い方を具体的に示すなど、子どもの発達段階を踏まえるようにしましょう。

家庭への働き掛け

家庭では、検温などによって子どもの健康を十分に把握し、インフルエンザ様症状がないことを確認してから子どもを登校させるよう、保護者に対してお願いしましょう。



環境衛生の整備

教室の換気をこまめに行ったり、ドアノブの衛生を保つなど、環境衛生に努めることが大切です。

また、感染拡大の事態に備え、石けんや消毒薬の早めの備蓄をしておくことも大切です。



重症化のリスクの回避

新型インフルエンザについては、ぜん息や心臓病、糖尿病などの基礎疾患を有する場合、重症化するリスクが高いとされています。基礎疾患を有している子どもがインフルエンザ様症状を呈した場合は早期受診、早期治療をするよう、あらかじめ子どもやその保護者に十分説明しておきましょう。

部活動や行事等における感染予防

- * 38℃以上の発熱や急性呼吸器症状の見られる児童生徒は、部活動や各種大会には参加しないよう指導してください。
- * 活動を行う場所は、こまめに換気を行ったり、出入り口等に速乾性アルコール消毒剤を設置するなど、環境衛生に努めてください。
- * 行事や各種大会等に参加した後は、うがい、手洗いの励行に努め、参加した児童生徒の健康状態の把握に努めてください。

